

# 二〇二四年度「日建連BIMセミナー」を開催

## 日建連BIMセミナーの概要

日建連では建築分野におけるBIMの普及・啓発を二〇一〇年四月から始めています。近年、会員企業に行った生産性向上のために着手している取組み調査でも「BIM活用」と「設計施工一貫方式の受注拡大」が上位に挙げられており、今後の建設業界では益々BIMを中心とした業務スタイルの確立が求められてきています。そこで、建築本部の直下に設計部門・施工部門・設備部門・BIM推進部門の各々が課題や方向性を横断的に討議する場として「建築BIM合同会議」を設置するとともに(二〇二一年八月)、国土交通省の「建築BIM推進会議」や「官庁営繕事業における一貫したBIM活用に関する検討会」なども連携しながら、建設業界全体で「BIMを中心とした業務スタイルの定着」に向け活動しています。

毎年開催される「日建連BIMセミナー」はBIMに関する情報発信の場として広く定着しています。現在のBIMの状況は、日建連が中心とした業務が(定着する)のか、それとも(停滞する)のかのターニングポイントにあります。二〇二四年六月二十一日に開催した「日建連BIMセミナー」では、これまで指摘されてきた課題に対してどのような考え方で取り組むのか、そのために必要なワークフローや技術は何か、を改めて明確にすること、すなわち「原点回帰」の必要性について、設計者と施工者が一堂に会し整理・認識する場としました。設計者と施工者がお互いの立場をぶつけ合い、理解・共感できる環境づくりなど一つひとつ地道に課題を解決していくことも日建連ならではの重要な活動です。セミナー当日は、二〇二名に上る多くの方にご参加いただきました。セミナー終了後のアンケート結果では、参加者の約九割が「参考になった」と回答し、「実際に沿った大変参考になるセミナー」と感じた。今後も課題やその解決提

案など、情報発信をお願いしたい」「設計・施工連携してのBIM活用への指向が強くなってきたことに期待しています」などの感想が寄せられました。今後も「日建連BIMセミナー」などを通じ、継続して情報発信に取り組みます。

【討議①】BIMの現在地から将来の方向性を提言する  
 【討議②】設計者と施工者の立場から設計BIMと施工BIMの連携を再考する  
 【討議③】設計者と施工者が設計段階で協働するフロントローディング(FL)を再考する  
 【報告①】BIMデータを承認することの課題の解決策  
 【報告②】BIMデータを施工段階で活用する課題の解決例  
 【報告③】竣工BIMと維持管理・運用BIMの作成者に関する課題の解決策

### セミナープログラム

- 主旨説明/主題解説
- 【討議①】BIMの現在地から将来の方向性を提言する
- 【討議②】設計者と施工者の立場から設計BIMと施工BIMの連携を再考する
- 【討議③】設計者と施工者が設計段階で協働するフロントローディング(FL)を再考する
- 【報告①】BIMデータを承認することの課題の解決策
- 【報告②】BIMデータを施工段階で活用する課題の解決例
- 【報告③】竣工BIMと維持管理・運用BIMの作成者に関する課題の解決策

### 登壇者

(BIM部会) 曾根巨充、吉田知洋、三輪哲也、垣内延介、染谷俊介  
 (設計BIM専門部会) 一居康夫、池田英美、佐藤浩  
 (施工部会) 荒木真也  
 (設備部会) 小菅博史、池田麻紀子、小川敦史

### 資料

当日の説明資料はBIM部会のHPをチェック!  
 過去のセミナー資料もアーカイブしています!

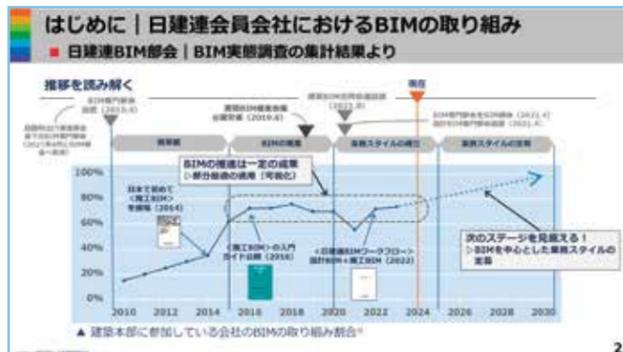


## <3つの討議内容>

### 【討議①】BIMの現在地から将来の方向性を提言する

#### ◎活用件数は横ばいだが、活用内容が深化、活用メリットを積み重ねることで裾野拡大

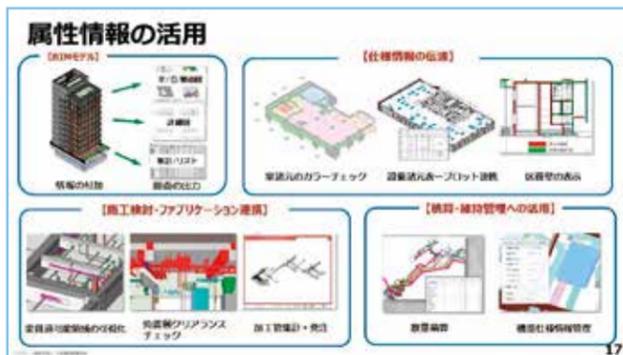
- 活用件数は大きくは増えていないが、個々の取組みのなかでBIMの使い方が上手くなってきている。
- 展開が進む会社と進まない会社で2極化しているが、環境整備が進むことをきっかけとして爆発的に進む可能性を感じている。
- BIMを中心とした業務スタイルの定着には、BIMを前提とした作図基準の整備などが必要。また、設計者、施工者それぞれがメリットに共感することも重要である。
- 更なる普及展開に向けて、これまでの取組みで効果を実感できた部分を積み重ねること、この業界を志望する学生の視点に立った周知活動が必要不可欠になる。



### 【討議②】設計者と施工者の立場から設計BIMと施工BIMの連携を再考する

#### ◎設計者と施工者が相手の立場・業務内容を理解し尊重する

- 設計者と施工者は職務が異なるため、同じ言葉を用いてもそれぞれ認識が異なる。例えば、BIMモデルの整合性というキーワードについても、設計者が考えるレベルと施工者のそれとは異なる。そのため、設計者と施工者間でコミュニケーションをとって正しい情報の粒度(確定度・詳細度)をお互いに受容することが大切である。
- 『設計BIMモデル作成ガイド』では、設計者が設計段階では入力しない項目を示した。案件が始まる前に施工者と共有することが重要になる。
- 設計のBIMモデルだけではなく属性情報のテキストにも着目すべきである。正しく入力されていれば施工段階で活用できることも多い。
- 「設計者がやるべきだ」「施工者がやるべきだ」という議論から「設計者と施工者が共創する」ことを前提に仕事の進め方を考えることが重要である。



### 【討議③】設計者と施工者が設計段階で協働するフロントローディング(FL)を再考する

#### ◎全体の業務量を削減し、適正な品質・コスト・工期をつくり込むというFLの定義を再確認する

- 設計段階で設計部門と施工部門がコラボレーションするFLの展開が進むなかで、設計者に負担が偏る状況がみられる。
- 施工側は設計側に何でも早くモノを決めることにこだわりすぎるため、かえって上手く進まないことにつながっている。すべての項目を設計段階で確定させるということではなく、何をいつまでに決めるか、という共通認識を設計者と施工者が議論・共有することから進めるのが良い。
- FLの目的は着工までに主要な課題・リスクを整理し、着工後の手戻りを無くすこと。また、施工の情報を設計図書に反映することも併せて取り組むべき。
- 設計者と施工者がお互いの立場を尊重したコミュニケーションをとることが本来のFLの在り方。情報共有のツールとしてBIMを有効に機能させ、設計と施工が協業してリスクをコントロールし、コンカレント(同時進行)なワークフローで仕事が進むようになることに期待したい。

